

# Bird Research Annual Report 2017

バードリサーチ活動報告



NPO法人 バードリサーチ  
Japan Bird Research Association

## ごあいさつ

バードリサーチでは全国の鳥の生態や生息状況に興味を持っている皆さんと共に、私たち自身もわくわくするような調査をしたいと考えています。そして、そこから得られた成果をもとに社会に役立つ提言や活動をしていくことを目指しています。

どこにでもいると思われていた鳥が急激に減少していることがヨーロッパで報告されていますが、日本でもスズメの減少は話題になりました。バードリサーチが行なっている調査でも、藪に生息しているウグイスや水辺に生息しているコサギの減少が明らかになりました。すでに危機に瀕している鳥だけでなく、見過ごされがちな普通種の生息状況を継続的にモニタリングすることで、絶滅への兆候をいち早く察知し、保全につなげることも私たちの大きな目的のひとつです。

2017年に行った調査は、全調査をあわせて延べ2,978名の方々にご協力頂きました。活動にご協力いただき、誠にありがとうございました。

鳥の調査は長期的であればあるほど、また広範囲であればあるほど信頼性が上がります。2018年も是非調査にご参加ください。



コサギ (Photo: 柴田正義)

## STAFF



左上から時計回りに  
植田睦之、近藤紀子、高木憲太郎、加藤ななえ、佐藤望、守屋年史、神山和夫



黒沢令子



平野敏明



三上かつら



サンコウチョウ (Photo: 染谷カーシャ)



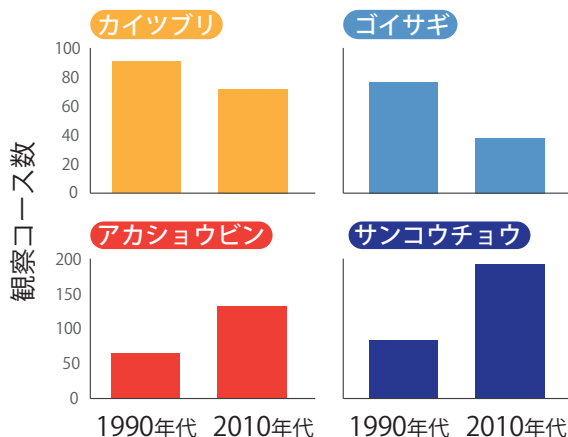
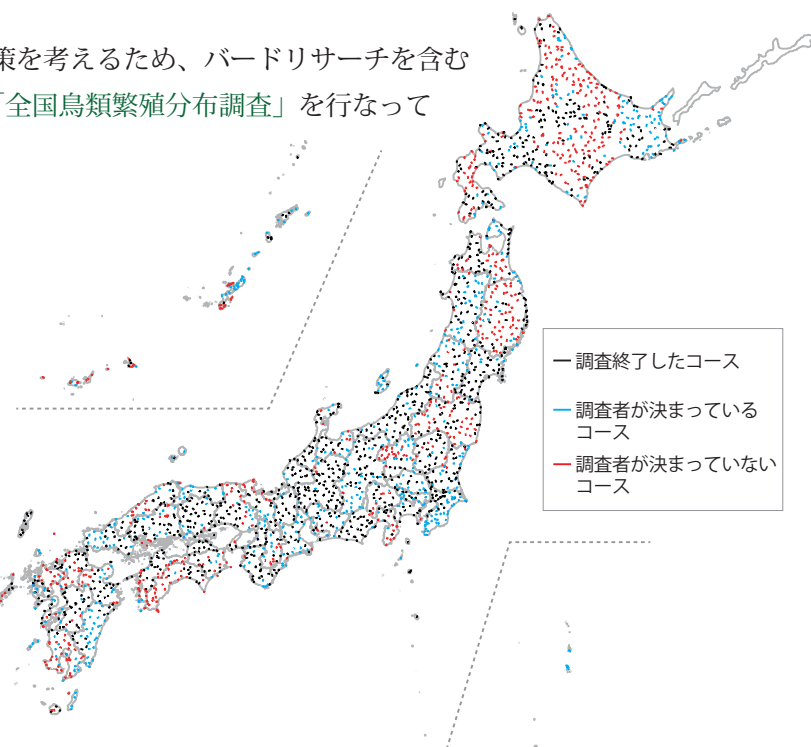
# 全国繁殖分布調査

しばしば起きる大規模な災害、中山間地の過疎化や農林業の変化、そして気候変動。日本の自然は大きく変化しています。鳥もこうした自然の変化に伴い、スズメなど意外な種が減ったりもしています。

そんな鳥たちの現状を明らかにし、対策を考えるため、バードリサーチを含む複数のNGOが中心となり鳥の国勢調査「全国鳥類繁殖分布調査」を行なっています。

## 半分の調査地で調査を実施

この調査は、1970年代と1990年代に環境省の調査として実施された全国約2300のコースの調査と、アンケート情報の収集を行ない、2020年までに日本で繁殖するすべての種の分布図を描くことを目指しています。その結果はレッドリストの改定など様々な活動に役立てられていきます。これまでに1,678人の参加を得て、1,153地点で調査が行なわれました。



## 見えてきた日本の鳥の現状

2016年からの2年間の調査でガビチョウやソウシチョウなどの外来鳥やアオサギやカワウなどの大型の魚食性の鳥の分布が拡大していること、逆にゴイサギやカイツブリなど小型の魚食性の種は分布が縮小していることが見えてきました。嬉しい変化もありました。1990年代は減少が顕著で心配されていたアカショウビンやサンコウチョウなどの夏鳥が、今回の調査では各地で記録され、復活しているようなのです（左図）。

## 調査にぜひご参加ください

たくさんの方の参加と協力で、成果が上がってきていますが、まだまだ調査しなければならないコースがたくさんあります。全コースの調査担当者が決まっている地域もありますが、コースの記録だけではその地域の鳥の分布を明らかにするには不十分で、アンケートによる補完が必要です。この調査の趣旨に賛同いただける皆様、ぜひ調査にご参加ください。



### 全国鳥類繁殖分布調査

主催団体：バードリサーチ、日本野鳥の会、日本自然保護協会、日本鳥類標識協会、山階鳥類研究所、環境省生物多様性センター

<http://www.bird-atlas.jp>

調査事務局：バードリサーチ

助成：サントリー世界愛鳥基金、自然保護助成基金

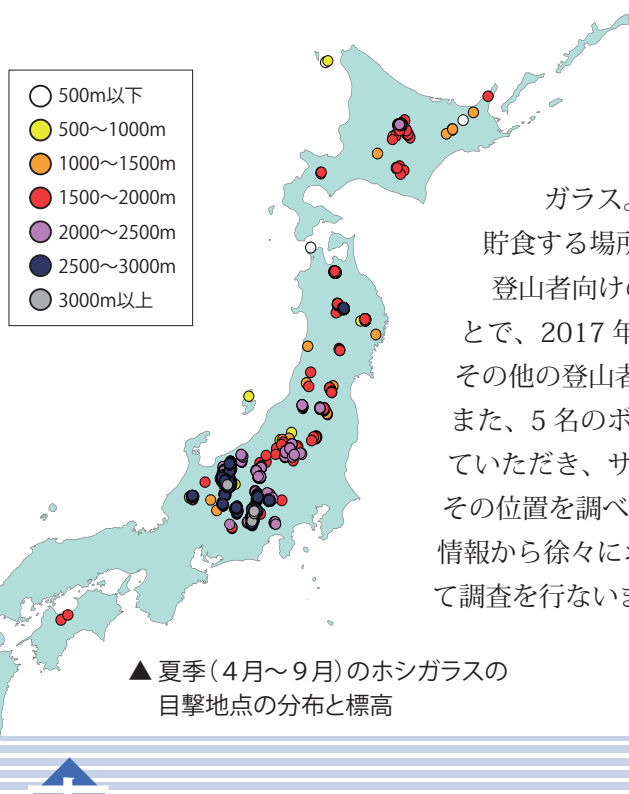


# 活動報告

## ホ

### シガラスを探せ!!

気候変動の影響によって高山の鳥の生息環境が失われるのではないかと心配されることがあります。しかし、ライチョウのように広い範囲で生息状況が調べられている例は少なく、ほとんどの高山の鳥の生息状況はまだ十分には調べられていません。



▲ 夏季(4月~9月)のホシガラスの目撃地点の分布と標高

そこで、こうした場所でも鳥の生息状況を把握できる体制を作っていくため、登山者の協力を得て実施する調査を始めることにしました。最初の対象として選んだ鳥は、登山者でも比較的観察しやすいホシガラス。秋にはハイマツの実を器用に取り出し、喉に詰めて、貯食する場所まで飛んでいく姿が見られます。

登山者向けの媒体で告知するなど、効率よく登山者に呼び掛けることで、2017年11月24日現在、この調査には277名(会員59名その他の登山者218名)の皆さまに参加いただくことができています。また、5名のボランティアの方に登山記録の投稿サイトをチェックしていただき、サイトに掲載されている写真からホシガラスを見つけて、その位置を調べる調査も行なっています。こうして得られた1402件の情報から徐々にホシガラスの分布状況が見えてきました。来年も継続して調査を行ないますので、ぜひご協力ください。

\*この調査には株式会社モンベルのご協力をいただいています。

## 東

### 京の離島を調査しました

東京都に属している伊豆諸島にはアカコッコやウチヤマセンニュウなど本土ではほとんど見る事ができない鳥類が生息しています。これらの鳥類がどのように分布、繁殖しているのかを調べるため、2017年の繁殖期に調査を行いました。本調査はボランティア調査員を中心に行われ、全部でおよそ300カ所を調査しました。その結果、詳細な繁殖分布図を描く事ができました。これらの結果を1970年代に行われた調査結果(樋口1973)と比較すると、各島の種の構成が変わっている事が分かりました。

たとえばツバメ。1970年代は伊豆諸島10島のうち3島で確認されていますが、今回の調査では9島で確認されていて、分布が広がっている事が示されました。一方でミゾゴイは1970年代の調査では8島で確認されていますが、今回は2島でしか確認されていません。今後はどのような要因で島から種がいなくなるのか、あるいは定着するのかを得られたデータから分析していきたいと考えています。

#### ミゾゴイ



▲ ミゾゴイとツバメの2017年の繁殖期の分布。

	大島	利島	新島	式根島
ミゾゴイ	●	●	●	○
ツバメ	○	○	○	○

\*この調査は自然保護助成基金の助成を受けています。



## ツバメに優しい街づくり

ツバメは人通りが多い場所で子育てをしますが、糞が落ちるために人との軋轢が起きます。2017年は東京と神奈川に路線がある京王電鉄のご協力で、駅にツバメのフン受けを設置していただくことができました。それに合わせて京王線全駅のツバメ調査をしたところ、都心から離れた多摩地域の駅ほどツバメの巣が多いことが分かりました。さらに株式会社シー・アイ・シーのご支援と皆様からの寄付金で2014年から続けている商業施設へのフン受け提供では、今年も道の駅などに約1,000枚を配布することができました。



★ ツバメの巣がある駅    ● ツバメの巣がない駅



## シロドリを守る

一見すると何も生息していないような砂浜の環境ですが、シロチドリやコアジサシ、ヒバリなどが繁殖しています。かつて普通種であったシロチドリは、砂浜の減少などによって生息地を追われ個体数が減少しています。そこで、繁殖期における繁殖の阻害要因の特定や保全方法を探るため、これまで継続して九十九里浜においてシロチドリのモニタリング調査を継続してきました。



### ■ネコによる繁殖の失敗

2017年度は、赤外線センサーカメラによりシロチドリの巣の夜間モニタリングも行いました。普段の夜の砂浜は訪れるものはほとんどいません。しかし、ひとつのシロチドリの巣で、夜間に哺乳類に襲われる様子が撮影され、同時刻からの抱卵放棄を確認しました。写っていたのはネコ（左写真）。昼間はほとんど見かけないネコですが、夜間に捕食者としてシロチドリの巣を襲っていることがわかりました。離島などでの在来種や海鳥の深刻な事態は、砂浜の鳥にも迫っています。

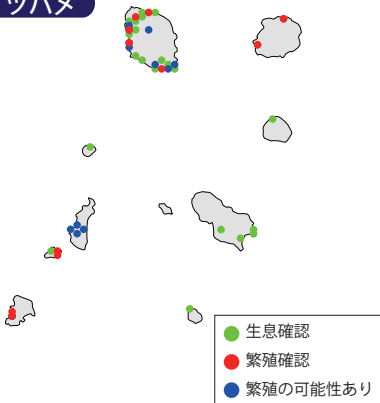
### ■営巣防護柵で捕食者シャットアウト

モニタリングに並行して営巣防護柵の試運用を行っています。防護柵は、シロチドリが通過できる大きさのメッシュが空いた約50×50cmのフェンス柵で、巣を囲って使います。9巣中7巣で孵化を確認でき2巣の営巣放棄がありましたが、捕食者による営巣の失敗はありませんでした。今後も設置する方法や場所、どのような場合に設置すべきかなどを検討していきたいと思えます。



\*この調査にはコンサベーション・アライアンス・ジャパンのご協力をいただいています。

## ツバメ



●	●	●	●	●
○	○	○	○	○
●	○	○	○	○

●: 1970年代に確認    ○: 2010年代に確認  
●○: 1970年代、2010年代ともに確認



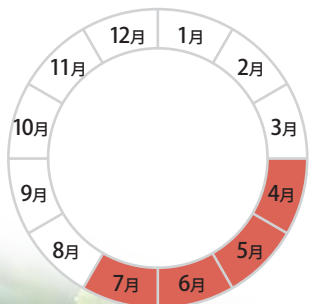
# 参加型調査の紹介

## 調査シーズン

- メインの時期
- メインではないが実施可能な時期



## 全国鳥類繁殖分布調査



これまで20年に一度実施されてきた鳥の国勢調査です。日本で繁殖している全鳥類の分布と過去からの変化を明らかにします。

\*詳細は2ページをご覧ください。



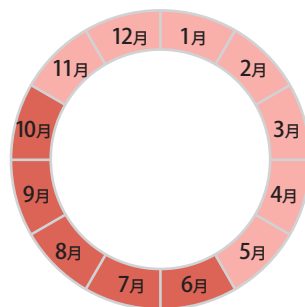
サンコウチヨウ (Photo: 高原健二)



## シガラスを探せ!!

一般の登山者にも呼びかけて、今年から亜高山帯から高山帯に生息しているホシガラスの目撃情報を集めています。どの山のどの標高に彼らが生息しているのか？その分布を明らかにするための調査を行なっています。登山の際に出会いましたら、ぜひご報告ください。

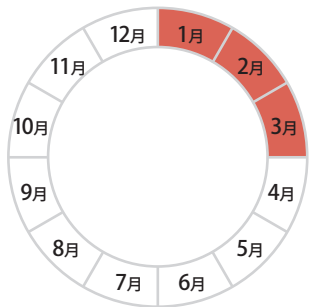
\*詳細は3ページをご覧ください。



ホシガラス (Photo: 時田賢一)



## ドリガモの幼鳥率調査



河川や公園の池などで見かけるヒドリガモのオスは、体の側面に白いラインがあるかどうかで成鳥と幼鳥を区別することができます。

ヒドリガモは極東ロシアの広い範囲で繁殖するため、繁殖地での調査は難しいのですが、

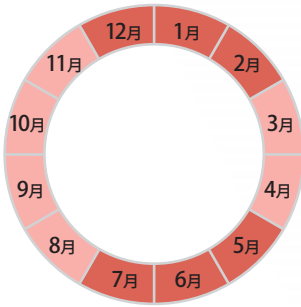
日本での幼鳥率を調べることで、ヒドリガモの繁殖成功率をモニタリングすることができます。ご近所のヒドリガモのいる場所があれば、1-3月にオスの成鳥と幼鳥を数えてみてください。

▼奥が成鳥オス、手前が幼鳥オス





## ランダバードウォッチ



意外に情報の少ない身近な鳥の動向をモニタリングするために、自宅とその周囲の鳥を調査します。これまでに、ゴミ対策の成果かハシブトガラスがやや減少傾向にあることなどが見えてきています。

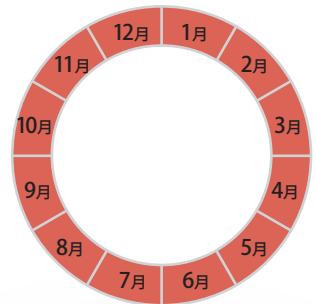


シジュウカラ (Photo: 小峯昇)



## 「記憶より、記録」野鳥データベース

バードウォッチング記録がたまって、整理に困っていませんか？ バードリサーチではブラウザで利用できる野鳥データベース「フィールドノート」を提供してきましたが、このたび、スマートフォンからも使えるようにバージョンアップしました。バードウォッチングをしているその場で記録を入力し、必要ときに検索したり、集計表を作ったりすることができます。フィールドノートに入力された記録はバードリサーチで全国的な分析のためにも利用させていただきますので、ご自身の野鳥記録の整理だけでなく、日本の野鳥の分布や増減を調べるためにも役に立ちます。

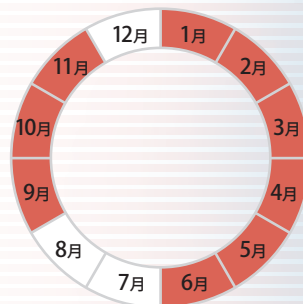


スズメ (Photo: 小堀脩男)



## 季節前線ウォッチ

温暖化の影響を明らかにするために、一般の人でもわかりやすい、ウグイス、ヒバリなどの初鳴きやツバメが巣に最初に戻ってきた日などの初認情報を集めています。最近是国内だけでなく、中国やロシアの初認情報も集めて国際的にも展開しようとしています。



カッコウ (Photo: 大塚之穂)



# ホームページ コンテンツ

調査のスキル向上のために様々なコンテンツをご用意しています。  
是非、ご活用ください。

## スピードバーディング

鳴き声教材として開発されたスピードバーディング。鳥の鳴き声の後に種名を聞く事ができます。いったんスタートすると、様々な鳥の鳴き声、種名を聞く事ができます。また、「身近な鳥編」「水辺・草原の鳥編」「山の鳥編1」「山の鳥編2」「地鳴き編」と分けられていて、ご自身の上達したいテーマに合わせて効率的に学習する事ができます。



スピードバーディング 検索

## 鳴き声図鑑

同じ種でも地域や個体、状況によって鳴き声が変わります。スピードバーディングで鳴き声を覚えたら、次は鳴き声図鑑で、様々な声を聞いてみましょう。



鳴き声図鑑 検索

## TORI-quiz

トリクイズは様々な条件で撮影された鳥の種名を当てるクイズです。かなり難しい写真も含まれているため、実践向きです。



TORI-quiz 検索

## Bird Research 研究誌

研究誌『Bird Research』は、日本のアマチュア鳥類研究者を育てること、これまで知られていなかった鳥の生態や行動についてまとめること、そして鳥類の保護のための優れた実践と応用研究を多くの人のもにすることを目的に編集しています。11巻より前の論文はどなたでも読むことができます。



Bird Research 研究誌 検索

表紙写真：ゴジュウカラ (Photo: 藤井 薫)

特定非営利活動法人 バードリサーチ

〒183-0034 府中市住吉町 1-29-9

Tel / Fax : 042-401-8661

E-mail : br@bird-research.jp

http://www.bird-research.jp

デザイン：いきものパレット

\*この活動報告はFSC認証紙を使用しています。